

講義概要 / Course description

科目基礎情報 / Course information

開講元学部 / Faculty	外国語学部 / FACULTY OF FOREIGN STUDIES
開講元学科 / Department	英語学科 / DEPARTMENT OF ENGLISH STUDIES
登録コード / Registration Code	FES64500
期間 / Period	2013年度 / Academic Year 春学期 / SPRING
学期 / Semester	春学期 / SPRING
曜限 / Period	月 / Mon 4
科目名 / Course title	アメリカ研究入門B-I / INTRO. TO AMERICAN STUDIESB- I
授業形態 / Course Type	講義 / Lecture
科目ナンバリング / Course Numbering	
レベル / Level	
教員表示名	小塩 和人
主担当教員名 / Instructor	小塩 和人 / OSHIO KAZUTO
単位数 / Credits	2
更新日 / Date of renewal	2013/02/25

講義概要情報 / Course description

講義概要 / Course description	<p>アメリカ研究の歴史・現状・将来について書かれた文を読んで、自分にとってアメリカ合衆国を研究する意味について批判的に考えます。具体的考察の対象は、研究上の基本概念、学問の性質ならびに役割についてです。</p> <p>毎回、異なる執筆者の評論を通して、考察を積み重ねていきます。まず、開国・維新期から戦前・戦後期の日本人にとってのアメリカを考えてみます。つぎに、アメリカ研究の変遷について広く考察します。そして、今後に残された課題について整理する予定です。</p> <p>ムードル課題 (30%)、リスポンスシート (30%) と学期末試験 (40%) の点数を合計して成績を出す予定です。なお、三分の一以上の欠席をした場合は、その時点で落第となります。やむを得ず欠席する場合は、事前事後に必ず連絡をして下さい。</p>
他学部・他研究科受講可否 / Other departments' students	<p>可 / Yes</p> <p>※要覧記載の履修対象とする年次を確認すること。</p> <p>Please make sure to confirm the student year listed in the bulletin.</p>
評価基準・割合 / Evaluation	<p>リアクションペーパー / Reaction paper (30.0%)</p> <p>春学期学期末試験 (授業期間中) / Spring Semester final exam(in class) (40.0%)</p>

	その他／Others(in detail) : ムードル課題 (30%)
テキスト／Textbook	自由記述／Free Text : 田所昌幸「反発と甘えの交錯」『アステイオン』59(2003)、斎藤眞「日本におけるアメリカ研究」『立教アメリカン・スタディーズ』22(2000)、有賀夏紀「アメリカ研究の変遷」五十嵐武士・油井大三郎編『アメリカ研究入門 第3版』(東京大学出版会、2003)、デイヴィッド・W・ノーブル「序論」『アメリカ研究の方法』(山口書店、1993)、辻内鏡人「マルチカルチュラリズム」『概説アメリカ文化史』(ミネルヴァ書房、2002)、油井大三郎「序」油井大三郎・遠藤泰生編『浸透するアメリカ、拒まれるアメリカ』(東京大学出版会、2003)、油井大三郎「展望」五十嵐武士・油井大三郎編『アメリカ研究入門 第3版』(東京大学出版会、2003)、小林剛「アメリカという名の政治的無意識」『アメリカ史研究』26(2003)。ムードルを参照して下さい。

講義スケジュール／Schedule	
授業計画／Class schedule	1.はじめに「アメリカとは何か、何故どのように研究するのか」
	2.日本にとってのアメリカ(1)「構造化された無責任」
	3.日本にとってのアメリカ(2)「範例と探求」
	4.アメリカ研究の変遷(1)「神話と象徴」
	5.アメリカ研究の変遷(2)「二つの世界」
	6.アメリカ研究の変遷(3)「多文化主義」
	7.アメリカ研究の課題(1)「アメリカニゼーション」
	8.アメリカ研究の課題(2)「ポストナショナル研究」
	9.アメリカ研究の課題(3)「政治的無意識の問題」
	10.上智のアメリカ研究(1)
	11.上智のアメリカ研究(2)
	12.まとめ
	13.学期末試験「語句説明」「変化と要因の考察」
	14.おわりに「アメリカとは何か、何故どのように研究するのか」